

2026年 OCA北部タイツアー

2026年8月26日
引率リーダー 瀧澤明子

OCAスタッフ 肥沼哲也
田上伴光
井上陽樹
川俣真乃



2026年_タイ北部ツアー概要

旅 程 名 : 2026年 タイ北部ツアー概要

主 催 : 一般財団法人MRAハウス OCA事業
 協 力 : メーコック財団
 チュラロンコン大学経済学部
 メーファールアン大学School of Managemet
 OCAタイランド

日 程 : 2026年8月20日(木) ~ 26日(水)

日本人参加者 : 日本人大学生11名(井上、川俣、田上陽太君含め)

OCAスタッフ3名

タイ人参加者 : チュラロンコン大学学生10名、
 メーファールアン大学学生5名、
 CU職員 Prasitさん、
 MFU Rapipong先生

スケジュール : 2026年北部タイ概要説明書
 2026 OCA Northern Thailand Tour スケジュール

名前	属性	備考
Ayu Maruyama	学生	
* Mao Sakamoto	学生	急病よりキャンセル
Minami Sakurai	学生	
Saho Sugiyama	学生	
Chisato Akiyama	学生	
Shinichiro Sugawara	学生	
Shintaro Nonaka	学生	
Yuya Ohori	学生	
Yu Kikuchi	学生	
Yota Taue	学生	20日~25日参加
Mano Kawamata	学生	21日~23日参加
Haruki Inoue	学生	22日~23日参加
Akiko Takizawa	OCA Staff	
Tetsuya Koinuma	OCA Staff	21日に帰国
Tomomitusu Taue	OCA Staff	20日~25日同行

2026年_タイ北部ツアー日程概要

主要日程

- 8月
- DAY 0 20日 バンコク_ Baan Sukhumvit 14に集合、その後パーティー田上さん家族とともにパーティー
- DAY 1 21日 BKKスワナプーム空港発 9:40 チェンライ到着。CU大学生と合流。White Temple・シンパーク観光
MKF到着後、子ども達と遊ぶ
- DAY 2 22日 MKF発、Doi Tungレクチャー受講、Fong Tea Planation視察。
メーコック到着後、子供たちとパーティー
- DAY 3 23日 MKF発、ゴールデンライアングル、Opium Museum、
メーコック到着後、MKFパーティー。子ども達と交流。
- DAY 4 24日 MKFチェックアウト後、MFUへ。MFUキャンパスツアー。クラフトアクティビティー。
フェアウェルパーティ。CU大学生チェンライ空港からバンコクへ戻り。日本人学生MFUホテルへ
- DAY 5 25日 MFU出発、チェンライ空港へ。CEI発 → BKKスワナプーム空港到着。Baan Sukhumvit 14チェックイン
OCAタイランドalumniと食事会
- DAY 6 26日 Baan Sukhumvit 14チェックアウト。CU 経済学部へ。プレゼンテーションセッション。
12:00 学生：昼食後解散 瀧澤はCU経済学部教授方とのランチミーティング（OCAタイランド、ミーとクックアイも同行）
- DAY 7 27日 JL 7 0 8 便にて帰国（瀧澤）

8月20日 Day0 バンコク集合 夕食会

- ・バンコクのBaan Sukhumvit 14に集合した後、MRTで移動し、田上さんご家族と合流して、ソブンにて夕食会を開催した。
- ・夕食会では、タイならではの豊かな食文化を体感しながら、交流を深めた。ラピオン先生のご子女であるカオパンさんや、泰英クラスのタンヤ先生とは今回が初対面となり、和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができた。
- ・また、明日から始まるプログラムへの期待や、それぞれが楽しみにしていることなどを発表し合い、これから始まる活動について参加者同士で意気込みを共有した。
- ・タイの文化や人々との交流を通して、明日からのプログラムへの期待が一層高まる、充実した夕食会となった。



8月21日 Day1 北部タイ_チェンライへ シンパークとホワイトテンプル観光

- ・早朝便でスワンブーム空港からチェンライへ移動した。空港では、MFU学生、ラピポン先生、アヌラックさんが出迎えてくれて、CUの学生たちと再会し、久しぶりの再会を互いに喜び合う姿が見られた。
- ・到着後、学生たちは昼食へ向かい、チェンライを代表する郷土料理「カオソイ」を味わった。タイ北部ならではの味と食文化を楽しみながら、学生同士の会話も弾み、和やかな時間を過ごした。
- ・昼食後は、チェンライを代表する観光名所の一つであるホワイトテンプル（ワット・ロンクン）を訪問。一人の芸術家が長い年月をかけて創り上げた壮大な芸術作品を目の当たりにし、そのスケールと独創性に圧倒された様子だった。
- ・続いてシンパークへ移動し、トローリーに乗って園内を巡った。4つの停留所でそれぞれの体験を楽しみながら、チェンライの自然や景観にも触れることができた。
- ・日本でともに時間を過ごしてきたこともあり、学生たちはすっかり打ち解けており、移動中も笑顔や会話が絶えない。国を越えた交流を重ねる中で、学生同士の距離がさらに縮まり、互いの友情が深まっていることを感じる一日となった。。



シンパークにて集合写真



ホワイトテンプルにて

8月21日 Day1 MKF 夕食&Anuluckさん勉強会

- ・寄宿後は、AnuluckさんとMKFスタッフの皆さんが用意してくださったおいしい夕食を囲み、楽しく交流した。
- ・夕食後には、AnuluckさんによるMKFについての勉強会が行われた。MKFの設立に至った背景やこれまでの活動、そして支援を必要としている子どもたちが置かれている境遇について、詳しくお話を伺った。信太郎君が、通訳を務めてくれて大活躍。
- ・普段の活動だけでは知ることのできないMKFの歩みや、子どもたちを取り巻く環境について理解を深める貴重な機会となった。日本とタイの両国の生徒にとって、MKFが果たしている役割や活動の意義について深く知る、大変有意義な時間となった。
- ・夜は、遅くまで学生同士も交流を深めた。



Anuluckさん勉強会



8月22日 Day2 Doi Tungレクチャー、Choui Fong Tea Planation視察

- ・朝、MKFを出発しDoi Tungへ。地域の過去と現在、けし栽培をやめて、付加価値のある農業への取り組みについて丁寧なレクチャーがあった。地域のSDG s 活動への理解を深める。MFUから通訳の学生も参加してくれた。
- ・昼食後はショップやマーケットを散策し、北タイの歴史や地域に根ざした取り組みを体感。Doi Tungで作られたコーヒーや、ナッツ、バニラを楽しむ。
- ・その後、Choui Fong Tea Plantationへ。開放的な茶畑の景観の中で、北タイのお茶と参加者同士の団欒を満喫した様子。



Doi Tung でのレクチャー受講



Choi Fong Tea Planation視察

8月22日 Day2 MKF子供たちとの懇親会

- ・Doitung, Choi Fongから寄宿。夕食後に、子供たちとの懇親会 & パーティー。
- ・学生が企画したゲーム、ビンゴ大会、子供達からの出し物のプレゼントと、お返しの学生からのパフォーマンス。子供たちも、日泰学生もみんなが楽しみ、今回のプログラムのハイライトのイベントとなった。



学生企画のゲームを実施。盛り上がった。



学生のパフォーマンス



子供たちの出し物



ビンゴ大会



8月23日 Day3 ゴールデントライアングル、Opium Museum

- 朝、MKFを出発し、バスでゴールデントライアングルへ移動。
- Opium Museumを見学後、ボートに乗船し、タイ・ミャンマー・ラオス3か国の国境地帯を視察。
- 日本ではなかなか実感することのできない「国境」を間近に体験し、地域の歴史や地理、国同士の関係を肌で感じる貴重な機会。



ゴールデントライアングル



ゴールデントライアングルでボート乗船



Opium Museum



8月24日 Day3 MFUキャンパスツアー・クラフトアクティビティー・フェアウェルパーティー

- ・MKFをチェックアウト後、Mae Fah Luang University (MFU) へ移動。日本ではなかなか想像できない広大なキャンパスに、生徒一同圧倒される。
- ・まずはMFUの学生大使の案内で地域文化ミュージアムを見学。その後、クラフトのワークショップを体験し、それぞれの個性が表れた作品に会場也大いに盛り上がった。
- ・ワークショップ後はMFUの学生食堂でランチ。現地学生と同じ環境で食事することで、タイの大学生活を身近に感じる貴重な機会に。
- ・今回の訪問をきっかけに、将来MFUへの留学を希望する生徒が生まれ、今後さらに交流と関係性が深まることを期待したい。



クラフトアクティビティー



折り紙名人の素晴らしい作品



地域ミュージアム

8月24日 Day3 MFUキャンパスツアー・クラフトアクティビティー・フェアウェルパーティ



MFUキャンパスツアー



学食でランチ



MFU学生食堂

8月24日 Day4 MFUキャンパスツアー・クラフトアクティビティー・フェアウェルパーティ

- ・ランチ後は北タイの民族衣装に着替え、中国文化センターにて記念撮影。学生にとっても、MFU訪問の思い出に残る良い機会となった。
- ・最後にMFUの記念会館を見学し、大学設立の背景やこれまでの歩みについて説明を受けた。
- ・約20年という比較的短い歴史の中で、現在の規模と存在感にまで発展したMFUの成長に、一同あらためて驚かされた。



民族衣装で記念撮影



MFU正面での集合写真

8月24日 Day4 MFUキャンパスツアー・クラフトアクティビティー・フェアウェルパーティー

- ・MFUを後にし、CU学生の搭乗前にムーカタでフェアウェルパーティー。旅の最後の余韻を楽しみながら、和やかな時間を過ごした。
- ・BBQのような開放的な雰囲気の中で、皆で囲むムーカタを満喫。美味しく、ボリュームも十分で、コストパフォーマンスも抜群。
- ・締めくくりの食事として、非常に良いレストランの選択となった。



フェアウェルパーティー



8月25日 Day5 チェンライからバンコクへ OCAタイランドalumniと食事会

- ・バンコクの会員制クラブ「Polo Club」にて、OCA Thailandの卒業生との交流パーティーを開催。本年度参加学生が訪日Pと北部タイの報告のプレゼンを行った。
- ・北部タイの報告では、大爆笑のシーンもあり、さらにOBOGも負けずにユーモアあふれるスピーチで、大変な盛り上がりを見せた。
- ・世代を超えた卒業生との交流を通じ、OCAが長年築いてきた歴史と実績、そしてタイに根付く強固なネットワークを実感する貴重な機会となった。



OCAタイランドalumni集合写真



8月26日 Day5 CU経済学部 ツアー解散

チュラ大経済学部会議室にて、日タイの学生で、フェスティバルの経済効果についてのプレゼンを行った。日本の学生は、祇園祭りとチェンマイのロイクラトン祭りの経済効果の比較、チュラのプレゼンは、ソンクランフェスティバル「水かけまつり」の経済効果についてプレゼンをおこなった。日本の学生も頑張って仕上げて発表もうまくいったよう。その後のチュラの学生の余裕のあるプレゼンのやり方を見せられて、日本の学生は多めに勉強になったと思う。最後は、プーヤイ（大人）の代表で、クッカイと瀧澤が、学生たちに水をかけて願いの言葉をかけるという、素敵な演出があり、驚いた。とても心がこもったプレゼンであった。Dr.クッカイが、学生達に英語で質問をしてくれて、コメントやSuggestionを出してくれた。大学内見学、ランチを終え、6日間のツアーが無事に終了した。



CU経済学部での学生発表会



Dr.クッカイもオブザーバーとして参加



CU経済学部前での集合写真

その他_8月26日 チュラ大経済学部メンバーとの会食

26日正午から、CU経済学部の教授メンバーとのランチミーティングが、BKKシェラトンスクムビットホテルのレストランで開催された。OCAで予算をとっていたが、昨年同様、経済学部にごちそうになった。

CU側参加者：Nopphol学部長、Sirima副学部長、Touchanun副学部長、Danupong副学部長、Somtip (Note) 先生

OCA側：瀧澤、Vorapng (ミー)、Waniwat (クックイ)

OCAからは、訪日プログラムと北部タイが滞りなく終了したことのお礼、渋沢栄一セミナーへの協力についてお願いをさせて頂いた

CUからは、

1. OCAがどんな人材を育てたいのか？という質問がでた。「国際社会で活躍できる、きちんとしたマナーや社交が身についた人材、ただ頭がいいだけの人材ではなく、他者に思いをはせれる人、弱者に目をむけられるリーダーを育てていきたい」という説明をした。実際そうになっているOBOGもたくさん輩出してきた。

2. 日本側のコアメンバーが少ないので、どういう対策を講じるか？→ 聴講生留学生制度を約束して頂いたが、実際に学生を派遣できれば、OCAにロイヤリティーをもつ学生を獲得できると思う。ただ、現状では、経済的理由、学年の問題、単位の問題などがあり、簡単に手を挙げて来ないのが問題。

Nopphol学部長：派遣学生の学部とMOUを結び、単位を交換することもできる（時間はかかる）。経済学部以外でも、CU内ほかの学部の授業を受けて単位取得をお願いすることもできる という提案を頂いた。

日本からの留学生が、ほとんどいないので、ぜひ実現にこぎつけてもらいたい。協力は惜しまない。とのよいお話をいただいた。

美味しいお食事と雰囲気の良いレストランをチョイスいただき、さまざまな意見交換ができ、有意義な会となった。



全体総括

＜総括＞

・OCAの目的と今回のツアーの成果OCAの大きな目的は、国や文化、世代を越えた交流を通じて、若い世代が多様な価値観に触れ、自らの視野を広げる機会をつくることにある。今回のツアーでは、北タイの歴史や文化、地域社会の課題、大学での学び、そしてタイ・ミャンマー・ラオスの国境地域まで、教室の中だけでは得ることのできない「生きた学び」を体験することができた。また、MFUやCUの学生、OCA Thailandの卒業生など、さまざまな世代・立場の人々との交流を通じて、OCAが長年築いてきた人的ネットワークの広がりを実感する機会ともなった。単なる海外研修や観光にとどまらず、参加した学生一人ひとりが将来の留学や国際交流、社会との関わり方について考えるきっかけを得られたことが、今回のツアーの大きな成果である。今回生まれた出会いや気づきが、今後の継続的な交流や新たな挑戦へとつながっていくことを期待したい。

全体総括

<良かった点>

■充実したプログラム

・本年の北タイツアーは、ラピポン先生のご尽力もあり、初日のホワイトtempl→シンパーク、2日目のDoitung→Choui Fong→子供達との交流、3日目のゴールデンライアングル、4日目のMFU訪問と、学生同士の懇親を深めながらも、北部タイの文化を感じたり、歴史を学んだり、MKFの取り組みを体感したり、タイの先鋭的な地方国立大学の実態を体験できたりと、例年にも増してバラエティーに富むリッチなプログラムになった。

■MKFの子供たちとの交流

・何よりも良かったのは、MKFでの子どもたちとのパーティーを通じた交流だった。子どもたちとの触れ合いにとどまらず、歌やゲーム、場を盛り上げる力など、参加した学生それぞれの個性や強みが自然に発揮される時間となった。その結果、日タイの学生同士の距離もさらに縮まり、ツアー全体の中でも関係性が一段深まる大きなきっかけになったと思う。

■LINEを活用した連絡網

・日本人参加学生向けのLINEグループを渡航前に開設したことは非常に良かった。事前の情報交換の場として機能しただけでなく、現地での集合・移動・連絡事項などを共有するプラットフォームとしても有効に機能した。次回以降も継続したい。

・また、タイ到着後には、タイ側の学生も含めた「OCA NORTH THAILAND TRIP」のLINEグループを開設。現地での連絡事項の共有に役立っただけでなく、参加者が自発的に写真や思い出を共有する場にもなった。単なる連絡ツールにとどまらず、参加者同士のつながりや、グループとしての体験そのものをより豊かにするツールとして機能した点も非常に良かった。

・今後も、渡航前の日本側グループと、現地での日タイ合同グループという二段階の運用を継続していきたい。

全体総括

■両国横断、メンバー固定型プログラムの効果

- ・チェンライ空港に到着した時点で、すでにグループとして非常に良い雰囲気が生まれていた。その大きな要因は、日本ツアーからメンバーを大きく変えずに、北部タイツアーを実施できたことにあるのではないかと思います。
- ・日本ではタイ側の学生がゲストとなり、日本側の学生が迎える。そして今回は、その立場を入れ替えて、タイ側の学生が日本側の学生を迎える。お互いの国を行き来し、双方がホストとゲストの両方を経験することが、相互理解を深め、学生同士の関係性を一段強いものにしている。
- ・単発の交流ではなく、同じメンバーが再会し、互いの国で時間を共有する。この「往復型」の設計こそが、今回のプログラムの大きな成功要因の一つだと感じた。

■MRA／OCAからの補助

- ・プログラム参加費や旅程全体への補助に加え、各日の随所に組み込まれた細やかな支援も、学生にとって非常にありがたいものだったと思う。
- ・例えば、MFUの学食での100バーツ分の食券補助や、ゴールドトライアングルからの帰路に立ち寄ったカフェでの休憩など、金額としては小さな支援であっても、学生が気兼ねなく現地での体験を楽しむうえで、とても有効に機能していた。
- ・こうした「必要な場面での小さなサポート」は、参加者の満足度を高めるだけでなく、プログラム全体に対する安心感や温かさにもつながっており、今後も継続していく価値があると感じた。

全体総括

■ 事務局レベルでの交流

・CUのディアさん、プーンさんなど、先方の引率スタッフにも、MRA／OCAの支援を通じて実際にプログラムを体験いただけたことは非常に良かったと感じた。

・ディアさんはInternational Student関連、プーンさんは学生課でクラブ活動支援や奨学金を担当されており、いずれも今後の学生交流において重要な役割を担いうる方々である。

・CUの事務方にMRAやOCAの活動内容や雰囲気を実際に理解していただくことで、今後のOCA学生交流に対する学内での理解や協力も得やすくなるのではないかと思う。・学生同士の交流だけでなく、こうした大学事務局レベルでの関係づくりを並行して進めることは、プログラムを継続・発展させていくうえで重要な基盤になると感じた。

・Rapipong先生には、全体のプログラム作りや、各所との調整、費用の立替など大変お世話になった。MFU以外の学生にとっても、5月の訪日からのおつきあいなので、大変親しみやすく、OCAの学生交流にはなくてはならない存在となっている。

そのほか、2024年に招へいした、国際交流部のJOYさんにも様々な手配をしていただいた。来日して実際のOCA活動に参加してもらったのは大きいと思う。

総括

＜改善できそうな点＞

■ MKFの説明セッション

- ・初日の夕食後に、アヌラックさんからMae Kok Foundation（MKF）の成り立ちや活動についてお話しいただく時間があつた。
- ・一方で、MKFがどのような経緯で設立され、現在どのような課題を抱えているのか、また、そこで暮らす子どもたちがどのような背景を持っているのかという点について、学生たちに十分伝えられたかという意味では、もう少し工夫できる余地があつたと感じた。
- ・特に、言語の違いがある中で、どのように内容を分かりやすく伝えるかという点は、来年度に向けて事前に工夫してもよいと思う。写真や図表、簡単なスライド、事前資料などを活用し、「MKFは何を目的に活動しているのか」「どのような課題を解決しようとしているのか」を学生が理解したうえで交流に入れると、その後の子どもたちとの時間も、より意味のあるものになるのではないかな。



来年は、仁菜さんが作った資料を共有したり、もう少しメーコックのことを事前に勉強する機会をつくるほうがよいかも。

北部タイツアーを通じて、
日タイの学生交流がより親密なものとなり、国
際相互理解が促進された。

学生からは、「**楽しいなかにも学びがあり**、かけ
がえのない体験ができた」と感想をもらえた。
OCAが目指すものを体感してもらえたのではな
いか。

MRAハウス、OCAの理念のもと、
タイとの国際交流事業を引き続き推進してい
きたい。

